

TAKATSUKI

★ 農委だより

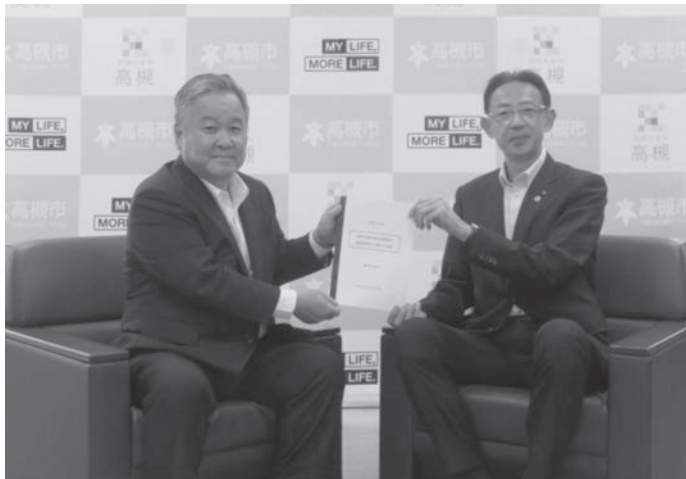
第111号
令和5年11月

編集・発行
高槻市農業委員会
〒569-8501
大阪府高槻市桃園町2番1号
TEL 072-674-7421

<http://www.city.takatsuki.osaka.jp/>

令和
6年度

農地等利用最適化推進施策等に 関する意見を濱田市長に提出



森本会長から濱田市長に意見書を手交

開催された実行組合長出席の農政懇談会での意見を始め、農業者・農業関係団体等から広く出された現場の声や、農業委員及び推進委員の意見・要望をもとに、9月14日に開催された農業委員会定例会で議決されたものです。意見書は、4つのテーマ「都市農業振興施策全般」「地産地消や食育啓発、主産地育成事業の推進」「農地の保全に向けた農業施設の整備」「農空間を取り巻く良好な環境の形成」と「付帯する意見・要望」で構成されており、

10月3日、農業委員会を代表して、森本茂会長・藤井博副会長・常任委員が市役所本館2階特別会議室で「高槻市農地等利用最適化推進施策等に関する意見」を濱田剛史市長に手交し、手交後には本市が抱える農業に関する課題等について、意見交換を行いました。本意見は、翌年度の市政や市予算に反映されるよう、毎年この時期に市長へ提出しているものとなります。作成にあたって、市内10地区で



手交後、濱田市長と意見交換

意見書の概要

- 1 都市農業振興施策全般について
 - ▽担い手の確保、遊休農地の発生防止、解消
 - ▽農業者との積極的な意見交換の実施など
- 2 地産地消や食育啓発、主産地育成事業の推進について
 - ▽学校給食における地産地消の推進など
- 3 農地の保全に向けた農業施設の整備について
 - ▽農道・水路等の整備及び農業基盤保全事業の利用促進、農業用水の確保・保全など
- 4 農空間を取り巻く良好な環境の形成について
 - ▽有害鳥獣対策の充実・強化及びジャンボタニシの駆除、ため池や農地の安全確保など

【付帯する意見・要望】

▽各地区における意見・要望

農業者の声を濱田市長に手交する

特に今年度は、農業者の営農意欲低下や、病害虫の発生など周辺農地への悪影響が懸念される遊休農地の発生防止や解消に向けた施策、今後より深刻になることが予想される担い手不足への対策を求めています。また同様に、耕作意欲を大きく低下させる原因となる有害鳥獣、とりわけジャンボタニシの駆除に関して、さらなる対策・支援を講ずるよう求めています。あわせて農業者を取り巻く近年の切実な状況を受け、今年度の意見書では本市農業の持続的発展を見据え、農業者に寄り添った施策や支援も求めています。なお、意見書全文と回答は、次号に掲載予定です

4年ぶりに視察研修を実施

11月6日・7日の2日間、

岡山県岡山市と香川県高松市を訪れ、農業振興等に関する2箇所の施設を視察しました。

この研修は農業関連分野の最新情報の収集や技術習得を行い、農業委員会の円滑な運営を図ることを目的として行われる研修です。以前は毎年行われていましたが、新型コロナウイルスの影響で中止が続き、今回4年ぶりの開催となりました。

初日は、岡山市にある農業法人(D&Tファーム)を視察しました。同社は特許を取得した「凍結解凍覚醒法」を利用した耐寒性バナナやコーヒーなどを栽培販売し、また導入・拡販支援を行い、6次産業化と観光農園等を行う企業になります。



もんげーバナナを視察する委員

「凍結解凍覚醒法」とは、種子や細胞をマイナス60℃まで緩やかに冷却し、ストレスを与えることにより植物の

環境順応性や生産性を向上させる技術で、この技術を利用した同社の耐寒性バナナ(もんげーバナナ)はこれまで栽培に不向きであった寒冷地でも栽培が可能となり、またそのバナナの糖度は非常に高いため、

複数のメディアで取り上げられています。

2日目は高松市にある神高松寿園と、JA香川県が直営する高松盆栽の郷を視察しました。高松市は古くから盆栽が盛んな土地で、全国シェアの約8割を占める松盆栽の一大産地です。

神高松寿園は樹齢200年を超える貴重な盆栽が並ぶ盆栽農家で、半世紀以上前から通信販売も行っています。

高松盆栽の郷は、高松盆栽の振興を図るために高松市で策定された「高松盆栽の郷」

基本構想に基づき、盆栽の直売だけでなく、盆栽体験をはじめとした国内外に向けた盆栽文化の普及や情報発信、観光振興など様々な活動を効果的に展開することを目的に令和元年にリニューアルした施設です。

最先端の技術や創意工夫された地元特産物の取り組み事例などを現地で視察した今回の研修は、本委員会にとって有意義なものとなりました。

中野農園がなにわ農業賞を受賞



10月25日に大阪国際交流センターで開催された大阪府農業委員会大会で「なにわ農業賞」の表彰がありました。「なにわ農業賞」は、農業の存在価値の向上に寄与するなど、優れた農業経営者を表彰するもので、今年府内、6経営体が選ばれ、本市からは中野農園が受賞しました。

同社は高槻市と門真市の農場でカイワレ、豆苗、ブロッコリースプラウト等をハウスで栽培し、収穫から出荷まですべて自社で行うことで、徹底した安全管理を行っており、また、都市近郊という立地を活かし、府内の多くのスーパーにも出荷しています。

中野農園代表の中野剛さん



盆栽の郷で研修を受ける委員

小学生たちが学習田で稲刈り

9月から10月にかけて、市内各地の学習田で小学生たちが稲刈りを体験しました。子どもたちが植えた苗は順調に育ち、稲穂が見事に実っていました。

子どもたちは地元農家の方々による指導の下、稲の根元を掴むことや慣れない鎌の扱いに悪戦苦闘しながらも、一生懸命に取り組んでいました。



稲刈りの指導を行う岸田委員(左)と藤井副会長(右)